

私たちの原点

創業者・大原孫三郎と第二代社長・大原總一郎は、技術革新による事業の発展に努める一方、環境問題への対応といった企業の社会的責任を重視し、事業活動を通じた社会的課題の解決に注力してきました。

CSR（企業の社会的責任）という言葉がなかった時代に、経営者たちが持っていた先駆的な精神は、クラレグループのDNAとして今日においても受け継がれています。

企業ステートメント

私たちの使命

私たちは、独創性の高い技術で産業の新領域を開拓し、
自然環境と生活環境の向上に寄与します。
一世のため人のため、他人（ひと）のやれないことをやる一

私たちの誓約

私たちは、

- 安全に配慮した高品質の商品・サービスを開発、提供します。
- 社会との対話を図り、健全な関係を保ちます。
- 地球環境の保全と改善、安全と健康の確保に努めます。
- 働く仲間を敬い、その権利を尊重します。
- 自由、公正、透明な取引を実践します。
- 知的財産を尊重し、情報を適切に管理します。

私たちの信条

理念

個人の尊重
同心協力
価値の創造

行動原則

安全はすべての礎
顧客のニーズが基本
現場での発想が基本



初代社長
大原孫三郎

社会から得た財はすべて社会に返す

企業の社会的責任を重視し、大原社会問題研究所、労働環境の改善・改革に取り組む倉敷労働科学研究所（現・大原記念労働科学研究所）、倉紡中央病院（現・倉敷中央病院）、大原美術館などを設立。地域の医療・福祉や教育・文化、人々の生活水準の向上に貢献しました。



第二代社長
大原總一郎

企業が得るべき利潤は技術革新による利潤、社会的、国民経済的貢献に対する対価としての利潤に限る

公害という言葉がまだ珍しかった時代にいち早く企業の排出責任に言及したほか、1950年には独自技術による国産初の合成繊維ビニロンを世界に先駆けて事業化しました。その後も、天然皮革に代わる世界初の人工皮革（クラリーノ）を開発・事業化するなど、事業活動を通じた社会的課題の解決と経済発展に貢献しました。

社会的課題 解決の軌跡

クラレグループは、その歴史の中でたゆまぬ技術開発と市場開拓に努め、数々の先駆的な事業を立ち上げました。

「世のため人のため、他人（ひと）のやれないことをやる」という使命に基づいて、自らの創意と努力により技術的課題を克服し生まれた、独創性の高い製品は社会に新たな価値を提供し、世界中で広く活用されています。



本社工場全景（当時）

事業活動を通じた社会的課題の解決・経済発展への貢献の軌跡

社会的課題の解決、経済発展に寄与する事業・製品の紹介

社会的課題と時代背景

1926～

レーヨンの事業化を目指して創立、国産初の合成繊維ビニロンと新事業の創出

1926年、クラレは化学繊維レーヨンの事業化を目的に「倉敷絹織」として岡山県倉敷市に誕生しました。1950年代には国産初の合成繊維ビニロンを世界で初めて事業化し、木綿に代わる合成繊維として生活物資・衣料品の充実に貢献しました。その後も、ポパール樹脂、人工皮革（クラリーノ）、EVOH樹脂（エバル）、イソプレン、歯科材料など新規事業を相次いで立ち上げました。

生活物資の充足・社会インフラ整備

- 太平洋戦争
- 重化学工業の発展
- 高度経済成長期
- オイルショック

1980～

合成繊維の高機能化

高強度、耐候性、耐薬品性など、合成繊維が持つ優位性に注目し、事業の多角化を図りました。1983年には健康被害をもたらす危険性があるアスベストの代替として、セメント補強用ビニロンを開発し、欧州の大手建築資材メーカーと長期輸出契約を締結しました。その後も、液晶ポリマー繊維（ベクトラン）を開発し、新たに製品群に加えるなど、産業資材事業の総合力強化と市場開拓の加速を図りました。

生活の利便性・快適性の向上

- プラザ合意
- 通信の自由化、国鉄の民営化
- エレクトロニクス産業の隆盛
- バブル経済

1990～

通信関連事業の拡大、化学品・樹脂事業の海外展開

インターネットや携帯電話の普及に伴い生活様式が変化していく中、通信の高速化に寄与する液晶ポリマーフィルム（ベクスター）を開発し、1999年には、パソコンや携帯電話などの電気・電子部品、自動車部品で大きな需要が見込まれる耐熱性ポリアミド樹脂（ジェネスタ）を事業化しました。また、化学品・樹脂事業では高い製品力を背景に海外でも販売を増やし、市場シェアを拡大するとともに、グローバルでの生産体制を構築しました。

インターネットの普及・生活様式の変化

- バブル経済の終焉
- インターネット、携帯電話の普及
- 京都議定書の採択

社会的課題の解決、経済発展に寄与する事業・製品の紹介

社会的課題と時代背景



米国セプトン生産設備の本格稼働を祝う鏡開き (2002年)



モノソル社を買収 (2012年)

2000~

環境配慮製品の展開、M&Aを通じたビニルアセテート関連事業の拡大

世界的な環境問題への意識の高まりを受け、加硫ゴムや塩化ビニルの代替品として熱可塑性エラストマー〈セプトン〉の米国生産設備を完成させ、本格稼働を開始しました。また、ビニルアセテート関連事業は、海外M&Aを通じてバリューチェーンの強化および事業規模の拡大を推進しました。これらの施策により、クラレグループの独創的な技術・製品は世界中で広く活用され、海外売上高比率が飛躍的に伸長しました。

グローバル化・環境意識の高まり

- いざなぎ景気
- IT企業、ベンチャー企業の隆盛
- リーマンショック

2010~

自然環境・生活環境に貢献する事業・製品の拡大

継続的な海外M&Aやアライアンスを通じて、水と大気の浄化に貢献する活性炭、物流の負荷軽減・フードロス削減に貢献するバイオマス由来のガスバリア材〈PLANTIC〉など、グローバルで自然環境・生活環境に貢献する事業・製品の拡大を図りました。

持続可能な社会に向けて

- 世界人口70億人を突破
- パリ協定
- SDGs国連採択
- 新型コロナウイルス感染拡大

2022~

事業ポートフォリオの高度化を目指して

「私たちの使命」のもと、持続的に成長するため、メガトレンドに沿って解決すべき社会的課題をターゲット領域として設定しました。「社会・環境価値」「経済的価値」の2軸による評価に加え、「市場成長性」も考慮して事業ポートフォリオの高度化を目指しています。EVOH樹脂〈エバルル〉、ポバール樹脂、光学用ポバールフィルム、水溶性ポバールフィルム、高機能中間膜、耐熱性ポリアミド樹脂〈ジェネスタ〉、活性炭、歯科材料、液晶ポリマー繊維〈ベクトラン〉などの事業に重点的に資源配分を行います。

社会的課題解決を成長のエンジンへ

国内・海外売上高の推移 (億円)

